

## せんだい GREEN アクションアワード表彰事業者「奥羽木工所 仙台港工場」



奥羽木工所 代表取締役の守屋長光さん（中央）、仙台港工場次長の相田英之さん（左）、総務部主任の大場久美子さん

株式会社奥羽木工所 仙台港工場は、ISO14001（環境を保護し、環境パフォーマンスを向上させるためのマネジメントシステム規格）を取得し組織的に環境負荷軽減に取り組んでいるほか、社員全体の意識改革を促す改善提案制度を導入し、業務の効率化や機器の稼働時間削減を実現していることが高く評価された。

奥羽木工所の事業は、オーダーメイドの造作家具の製作。製品をつくる過程で発生する端材を減らし、またそれでも残った端材についても効果的に再利用できるよう取り組んでいる。

木は余すところなく使う、端材も捨てずに再利用するというスタンスは以前からのもの。家具の製作に使用できない部分についても燃料として使用するなど、様々な形で活用。さらに木取り時のカットパターンを工夫し、そもそもの端材の発生量を減らす取り組みを 0.1%単位で実施している。

端材は色と木目など別にデータ管理して最適な活用法に振り分けており、今期は実際に 1%以上の改善に成功しているとのこと。



端材を色と木目など別に管理し、効率的に使用している

「企業と従業員が自分事として目的を共有し、目標に対して皆が一丸となって行動することが重要」と考えており、従業員の取り組みへの意識向上を狙って優れた改善提案の表彰や個人目標の達成状況を人事考課で目に見える形で評価することでエネルギー使用量の削減に貢献。今後は照明のこまめなオン・オフをはじめとした個々の取り組みに加えて組織的にリソースの効率的な使用をさらに検討していく。

そして使用するエネルギーが何に由来しているかも重要な課題と認識。会社敷地内にバイオマス発電事業者が発電所を建設中で、「この発電所の稼働がはじまれば、さらに地球環境に寄与できるのではないか」と意気込む。